

幼児教育 英語で差別化

【本別】特色ある幼児教育に取り組む本別町は2020年度から、楽しみながら国際感覚を育む「こども英語チャレンジ」事業を展開し、今年で2年目を迎えた。町の姉妹都市・豪州ミツチエル市から外国人英語講師を招き、未就学児から英語に触れる機会を創出する。町では保育施設への外国人講師派遣は初めて。町の子育て環境の充実を図り、ひいては「子育て世代の移住を促進するカードの一つになり得る」と関係者の期待を集めている。



本別町・外国人講師派遣

本別町では英語教育改革 年4月、「こども英語チャレンジ」事業を計画した。小・中学校、高校の各段階で積極的な英語教育を進めている。これに加え、就学前教育として町内保育施設に英語を母国語とする外国人を招聘（しょうへい）。子どもたちが楽しみながら英語に触れて国際感覚を育むことを目的に、2019

担当の子ども未来課は幼児教育の先進地でもある上土幌町を視察したほか、講師には豪州ミツチエル市の出身者を想定し、町国際交流協会を通して派遣要請や

サマラさんによる朝の集会は子どもたちに大人気（認定こども園ほんべつ）



高校まで切れ目無く実践

6月からこども園で週4回、勇足へき地保育所で週1回行うことにした。

小学1、2年にも

初代の外国人英語講師にはミツチエル市生まれのサマラ・クックさん（28）が就任。子どもたちが楽しく英語に親しめるよう、季節に合わせた手作りのオリジナルゲームを使用する。夏のゲームはカマキリなどの昆虫を捕まえる「バグキャッチゲーム」、収穫の秋には野菜をテーマにするなど、子どもたちの興味をそ

今年度からは、就学前の園児から高校生まで切れ目なく英語に触れることを目的に、英語活動を実践する未就学児と、小学3年から始まる英語教育までの「空白期間」だった小学1、2年生を対象に事業を展開している。町教委による放課後活動として6月にスタート。サマラさんを講師に、年度内に町内の各小学校で10回程度、英語に慣れ親しむ。町教委は次年度以降も「サマラタイム」。英語の遊戯の歌に合わせて園児と一緒に踊り、英語に触れる。子どもたちは帰宅後も楽しそうに英語の歌を口ずさむなど、英語に親しむ姿を見た保護者からはおおむね好評を得ている。サマラさんは約1年半の講師の仕事を振り返り、「子どもたちが確実にレベルアップしているのを実感する。進歩や成長していくことはうれし

活動の一番人気は、こども園で朝の集会時に行う「サマラタイム」。英語の遊戯の歌に合わせて園児と一緒に踊り、英語に触れる。子どもたちは帰宅後も楽しそうに英語の歌を口ずさむなど、英語に親しむ姿を見た保護者からはおおむね好評を得ている。サマラさんは約1年半の講師の仕事を振り返り、「子どもたちが確実にレベルアップしているのを実感する。進歩や成長していくことはうれし

サマラさんが籍を置く町子ども未来課の大橋堅次課長は、英語教育をはじめとした英語活動は継続することが重要とする。「小さいころから英語に親しみ、国際感覚を持った子どもが育つことは、町にとってさまざまな良い効果をもたらさず」と話している。

（折原徹也）